

# にんじん

煮物や酢の物などの和食から、カレーやシチュー、サラダなど幅広い料理に利用できる一方で、ニンジンには独特の匂いなどから子どもの好き嫌いが多い食材の一つとしても知られています。しかし、ニンジンは「緑黄色野菜の王様」と呼ばれることのあるほど豊富なβカロテンを筆頭に、食物繊維（ペクチンなど）やビタミンB1、ビタミンB2、鉄分、カルシウムなども含んでいます。ニンジン特有の赤い色はカロテンの色素によるもので、体内でビタミンAに変わり、体の抵抗力を高め、活性酸素を抑制する働きがあります。

## 8月の農作業

平成15年発行：  
JAハリマ「生き生き健康野菜づくり」より

# 雑草図鑑 チドメグサ・ヒメイヌビエ

## 8月の農作業

**作型** 作りやすいのは、夏まきで11～12月収穫の栽培である。畑は早目に完熟堆肥と石灰を施し、15～20cmの深さに耕す。順調に生育させるには、本葉2枚目までと、根の肥大期にあたる本葉6枚目頃の水やりが大切。

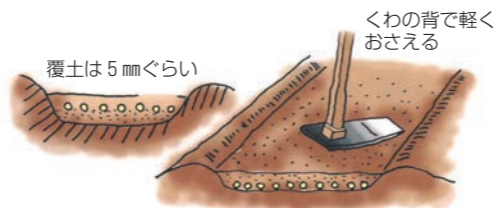
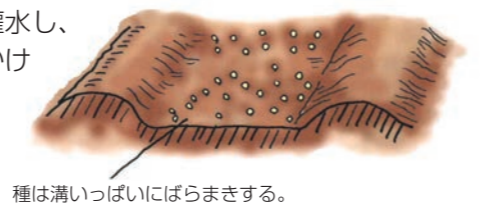
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名	
春まき			○	○			■	■	■	■			向陽二号・陽明五寸	
夏まき	■	■	■						○	○		■	■	向陽二号・夏時鮮紅五寸・金時人參 黒田五寸

○：種まき ■：収穫

### 畑の準備・定植

<b>土づくり a当たり</b>
堆肥 300kg
セルカ(有機石灰) 10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合
<b>元肥 a当たり</b>
醗酵鶏糞 20kg
畝立時施用

- 春まきはビニールトンネル栽培にする
- 2条まき：畝幅80～90cm(条間30cm)10cm程度のまき溝を作る。
- 十分灌水してから種をばらまきし、薄く覆土(4～5mm)後、鎮圧する。(コーティング種子は10cm間隔で点まき)
- 発芽まで乾燥を防ぐため十分灌水し、切りわら並びに寒冷紗をべたかけするとよい。



### 間引き・追肥

- 本葉1～2枚時：こみ合っているところを間引く。
- 本葉3～4枚時：5cm間隔に間引く。
- 本葉6～7枚時：7～8cm間隔に間引き、追肥する。
- 2回目の間引き後から追肥、土寄せを行う。(追肥は1回目と反対側に施す)  
(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料4～5kg/a)



### 防除

病虫害名	耕種防除	農薬による防除
黒葉枯病	発病株を除去する。 肥切れしないようにする。	ダコニール1000(1,000倍) 7日前まで5回 Zボルドー(500～800倍)
軟腐病	高温時の播種を避ける。	Zボルドー(500倍)
ヨトウムシ	早期に発見し、分散前に捕殺する。	ランネート45DF(1,000倍) 前日まで2回

### 収穫

- 発芽後110～120日位で収穫の目安となる。
- 太くなったものから順に抜き取る。
- 穫り遅れないように注意する。



裏面は雑草図鑑 チドメグサ・ヒメイヌビエを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.304 平成28年8月17日発行

### チドメグサ

セリ科の多年草で畑地、芝生、庭などに生育する。本州から沖縄の人家の庭や道端に普通に生え、アジアの熱帯地域に広く分布する。茎は地面を這い、各節から根と葉を出す。葉は長い柄があり、円形で基部は心臟型、表面は無毛で光沢がある。直径1～1.5cmと小型で、切れ込みが浅く、基部の左右のへりは互いに接している。夏から秋にかけて花柄を出し、10数個の果実をつけ、この実が落ちて、また発芽してくる。休眠芽が芝草の休眠芽と同じ層に位置するため、極端な刈り込み条件でも生き残りやすくなる。葉をもんで、その汁を傷口につけると血が止まるといわれるので、この名がある。



圃場に群生するチドメグサ

### 防除のポイント

土壌水分の多い土地を好む傾向があり、茎は地面を這い、各節から根と葉を出すため刈り込みを行っても除去しきれないため、非常に駆除が難しい。除草剤は移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード(作物によって使用方法が異なるため要確認)を散布する。

### ヒメイヌビエ

イネ科の一年草。道端や空き地などに生息するが、北海道では畑地にも多く発生し、害草となっている。幼苗や成長中の形はイヌビエと同じでほとんど区別がつかないが、全体がイヌビエよりも小型である。全体に小型で、紫色を帯びることが多い。小穂はまばらに付き、枝や小穂の基部に数本の長い毛がある。小穂の長さは2.5～3mm。ノビエの中では最も小型で、出穂期が早く、乾燥した畑地や路傍に生育する。他のノビエと同様に葉舌がなく、芒は無い。



ヒメイヌビエの小穂

### 防除のポイント

最近では、畑地、休耕田、路傍、空き地、果樹園などでもよく発生する。効果のある除草剤が多く使われている現在でも、残草しやすい雑草の一つ。草丈1m以上になると、草刈が大変になるため、早めの防除が必要。除草剤は移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード(作物によって使用方法が異なるため要確認)を散布する。

※農薬使用の際は、使用方法・使用時期をよく確認して使用しましょう。

裏面はにんじんを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.304 平成28年8月17日発行